



今年度のESDの重点目標

ESDの日常化 ～授業を通して気づき、考え、行動する～

【令和3年度 ESD 実践報告】

01 6年間大事に使おう土粘土（全学年）

12 つくる責任
つかう責任



1年生で土粘土と出会い、毎学年、学期に1回粘土の健康観察を行いながら触れ、造形活動する。大きな作品をつくる場合には、学校保管の多量用の粘土を使用する。6年間、図画工作科で粘土造形を行い、卒業制作で皿などを創作し、焼いたものを持ち帰る。



02 野菜博士になろう(1・2・3年生)

2 飢餓を
ゼロに



12 つくる責任
つかう責任



社会科の「農家の仕事」の学習から発展し、地域の農家、酪農家の話を聞いたり、教わったりして野菜の育て方や農家・酪農家の仕事について知る。さらに栄養士の授業から、野菜だけでなく食べ物の大切さについても考える。



03 睦っ子米作り(5年生)

2 飢餓を
ゼロに



12 つくる責任
つかう責任



社会科の「米作りのさかんな地域」の学習から発展し、米作りの工夫などについて考えた。さらに、地域の農家の協力を得て、実際に田植えの体験を行い、手作業と機械作業の違いやこれからの農業や米作りの課題について考える。



04 4年生校外学習

11 住み続けられる
まちづくりを



15 陸の豊かさ
を守ろう



睦地区にある「むつみの森」へ行き、里山を保全している「里山むつみ隊」の方に、森を守ることの意味や、どのような活動をしているか話を伺う。実際に里山を探検して、季節ごとの自然の様子や生き物を観察する。図画工作科で使用する木の実や木の枝などの材料を探す。



05 SDGs カードの掲示

各教科で、関係する17の目標のカードを黒板に掲示して、子供たちがSDGsの17の目標を常に意識できるようにしている。持続可能な取組にしていけるために、毎日の学習を自らがSDGsにつなげて考えていける児童の育成に取り組んでいる。

